

# Essay

Sapiarc.com

2013年4月22日(2013-4)

## パソコンのこれから

Microsoft 社が、Windows XP に対するサポートを来年4月で打ち切ることが発表されたことが新聞に出ていた。これは、既にかなり前から既定のこととされていたので、驚くには当たらない。しかし、日本だけでも、まだ2,300万台以上のパソコンがWindows XP で動いていると言われている。サポートがなくなると、直ちにXP 使用のパソコンが動かなくなるというわけではないが、いずれこれらのパソコンは買い替えることになるだろう。1民間企業の製品がこれほど普及し、広範囲に大きな影響を与えるということは驚くべきことだ。また、そこに何か割り切れないものを感じる人も多いのではなかろうか。

私は、パソコンというものが今後どうなるのかについて関心を持っている。そのはっきりしたきっかけになったのは、最近Windows 8 で動く新しいノートパソコンを購入して、それにOffice 2013, Adobe Acrobat XI Pro, ホームページビルダー17などの最新のソフトを載せたことだ。こう言うと、簡単なことのように思えるが、一応使える状態にするのは容易なことではなかった。買ったパソコンが、日本のメーカーのものだったならば、もっと簡単だったのかもしれないが、これまでの継続性を考えて、DELL の Latitude という法人向けのパソコンにしたことにも「容易なことではなかった」ことの原因があったのかもしれない。

しかし、一番大きな問題は、Microsoft 社が昨秋発売したWindows 8 という新しいOS (基本ソフト) にある。これは、これまでのMicrosoft 社が出してきたパソコンのOSに加えて、タブレットなどの基本ソフトにもなるように作られたもので、少なくとも見かけ上は、これまでのWindows とは大きく異なっている。Microsoft 自身もタブレットを出しているが、アップルのiPadに差をつけられている。そのような状況を挽回しようという意図をもってのがWindows 8だとされている。パソコンのOSとしての機能は、Windows 7を大きく上回っているとは言えず、逆に使い勝手を悪くした感じがすることもある。

今後、小型ノートパソコンとタブレットとの関係はどうなっていくのだろうか？ Microsoft 社は、この点をどう考えて、Windows 8を作ったのだろうか。私は、タブレットを使ったことがないので、若干ピン外れのことを考えているかもしれないが、タブレットは情報流通のための機器であって、パソコンのように文書や図表を作成するための本格的な機能を持っているわけではない。どちらかと言えば、パソコンよりもスマホに近いものだと思う。スマホよりも大きいので、見やすいという利点はある。

上記の私の考えが間違っていなければ、タブレットと小型パソコンは競合するよりも補完するものだ。机の上にタブレットの架台(キーボード付き)を置いて、小型パソコンとしても使えるタブレットが既に発売されているようだ。架台から外して、タブレットだけを持ち歩くこ

ともできる。これが、実際に便利なのかどうかを知りたいのだが、私はまだその機会を得ていない。

アマゾンが出している Kindle Fire HD というタブレットは、本を読むための Kindle にタブレットの機能を付加したもので、これにはパソコンの機能はない。

私は、Kindle が発売されてから暫く後で、アメリカのアマゾンから直接 Kindle を買った。本を読むには良いが、欠点は未だ収録された本の数が十分でないことと送信速度が遅いことだ。現在発売されている Kindle Fire HD の送信速度は速くなっているようなので、いずれ買いたいと思っている。収録されている本数は現在百万冊と言われているが、多分5百万冊ぐらいまで増やすことが必要だろう。

というわけで、近い将来に、小型パソコンとタブレットは一体化して、毎日忙しく飛び回る人たちには必需品になるだろう。しかし、これと Kindle 型のものとは別になるのではないか。本を読むという行為は、（本以外の情報源から）情報を早く入手することや、文書を作成することとは異質のものだ。したがって、これら2種のもものが併存することが望ましい。

本来のパソコン、つまりノートパソコンやデスクトップパソコンは、現在売れ行きが伸び悩んでいるようだが、タブレットと小型パソコンの一体化が進んで、それと本来のパソコンとの住み分けがハッキリしてくれば、本来のパソコンへの需要にも一定の伸びがあるのではないだろうか。何しろ、現在のパソコンの機能は驚くべきものになっているのだから、それが活用されないはずはない。

私が最近買ったパソコンには、6GB のメモリと 320GB のハードディスクが標準装備になっており、それらを増やすことも可能である。そう遠くない将来に 1TB（テラバイト）のハードディスクが標準装備になるだろう。それに見合っ、計算速度が上がるということだ。私が最近買った DELL のパソコンは、約6年前に買ったものよりも、処理速度は格段に速くなって

おり、2年半ほど前に買ったパナソニックの小型パソコンと比べても明らかに速い。それだけに、今後のパソコンの発展には大いに期待が持てるわけだ。

現在のスーパーコンピューター並みの計算速度をもったパソコンが、現在のパソコンと同じぐらいの値段で買えるようになる可能性はあるだろう。そうなれば、少し前までは夢物語だった膨大な計算を自宅ですることになる。私は、そういうことが可能になることを期待している。計算してみたいことがあるからだ。その一方で、私自身の頭と体がいつまで正常な状態を保てるかという問題がある。私の期待どおりに、事が運ばないこともあるだろうが、それは天命というものだ。論語に「五十にして天命を知る」と書かれているが、私の知命の歳はそれよりも30年近く遅れていることになる。しかし、私にはできなくても、研究自体は誰かがいつかするだろう。科学の研究とはそういうものだと思う。（おわり）